

造林作業における指差確認について

新城営林署 齊 藤 義 一
齊 藤 利 治
原 田 喜 美

私達は何事も、自ら強い意志で実践する。日常不断の積重ねが最大の安全対策だと確信している。そこで私達が、今一番力を入れて実行している指差確認を柱とした安全作業の取り組みについて発表する。

指差確認は、声を出す事による照れくさきもあり、一時は抵抗もあったが、度重ねる毎に熱が入り、今では全員がその必要性に気付き、自覚とたゆまぬ努力を続けている。この利点として、かりに上下に他の者と接近している場合、絶対に良心的にも「よし」という言葉は出ないもので、そのために今まで以上に相手に注意して作業を行うことができるようになり、未然に災害を防止できる様になった。

1人が呼称すれば、他の者も必然的にやらざるを得ない様になり、なお一層の自信を持ち、「足元よし」「上よし」「下よし」「間隔よし」「浮石よし」「踏みつけよし」。

この呼称が、明るい私達の職場の相言葉になっている。

1. 指差確認と安全呼称の必要性

造林作業は毎日、場所、作業内容等が変わるのが常で、作業環境は複雑多岐にわたりそのもとの、班員がそれぞれ別に歩き、刃物を振って作業するので、各人個々の作業環境も又、千差万別となる。このような条件の中で、自分を含む班員全体の安全を確保するにはまず、自分の置かれている場所の状態をよく知り、それに応じた行動をとるという一事につきることになると考える。自分の置かれている場所の状態をよく知る一つ的手段として指をさし、呼称するという行動を実行に移した。

2. 指差確認と安全呼称のポイント

作業内容、場所に応じあらかじめ主任、班長から指示、注意事項を受ける外、過去の経験等から当日の作業環境を確認し、心構えをする。

(1) 共 通 事 項

- ア 天候により、足もとのすべり、道具の手もとの狂い。
- イ 傾斜により、滑落、転石、浮き石、間隔
- ウ 石礫の多寡により、足もと、転石、間隔
- エ スズタケのあるところ、踏み抜き。
- オ 機械、器具の状態確認、点検完了。

(2) 作業時期により

火気、蜂、マムシ、表土凍結

(3) 作業内容により

ア 植付 浮石、転石

イ 機械刈 作業間隔

ウ 枝打 命綱の着用、はしごの安定

当日の作業内容、場所に応じ、これらの因子について該当する事項をピックアップし、適宜組み合わせて全員が承知しておく。

3. 全員で実施する。

植えつけ作業に例をとれば、

○作業班長

「今日の植付場所は急傾斜で、植え穴から石が出る。上下作業にならないよう間隔を確保すると共に、掘り出した石を安定させること」

○安全推進員

「今日の確認事項は、

1. 間隔よし、
2. (浮き石の)安定よし
を重点にやる」

○全 員

「間隔に注意しよう」

「浮き石を安定させよう」

と全員の心構えを一致させる。

作業現地では一致事項の外、各人の場所に応じた事を含め、確認し合いながら作業を行う。

4. む す び

指差確認及び基本動作の定着には、班員一人一人が自覚と反省を行い、納得づくで行う事が必要である。押しつけは決して真に定着したものにはなりえない。そのためにも、私達は、グループ討議を積み重ねて、どの様にしたら皆んなが受け入れ、実行し易いかを十分検討した上で、これを実践に移して行く様にしている。

職場の安全は、班員の和とこうした明るい和の中から皆んなで取り決めた事は必ず実行すると言う実行力。そして注意された事を素直に受ける、素直な心により、達成されると思う。